

公共事業新規箇所評価調書

(様式4)

評価確定日(令和5年8月8日)

事業コード	R05-農-新-12	区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	農業農村整備調査計画費	部局課室名	農林水産部農山村振興課
事業種別	かんがい排水事業	班 名	農村整備計画チーム (tel)018-860-1855
路線名等	沼館	担当課長名	農山村振興課長 鈴木 慎一
箇所名	横手市雄物川町沼館	担当者名	チームリーダー 田上 文啓
プランとの 関連	戦 略	農林水産戦略	
	目指す姿	農業の食料供給力の強化	
	施策の方向性	持続可能で効率的な生産体制づくり	

1. 事業の概要

事業期間	R6~R15(10年)	総事業費	23.1億円	国庫補助率	50.0																																																																									
事業規模	用排水路工 L=5.6km																																																																													
事業の立案に至る背景	<ul style="list-style-type: none"> ○ 対象用排水路は、昭和40~62年にかけて県営県営かんがい排水事業により造成された。 ○ 水路は老朽化が著しく、維持管理に多大な労力を要している。 ○ また、国営の関連事業に位置づけられており一体的な整備を求められている。 																																																																													
事業目的	○ 本水路を改修することにより、農業用水の安定供給と施設の維持管理労力の低減を図り、農業生産の維持及び農業経営の安定を図ることを目的とする。																																																																													
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>全 体</th> <th>R 6 年 度</th> <th>R 7 年 度</th> <th>R 8 年 度</th> <th>R 9 年 度 以 降</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>2,311,000</td> <td>118,000</td> <td>107,000</td> <td>235,000</td> <td>1,851,000</td> </tr> <tr> <td>経費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 工事費</td> <td>1,980,000</td> <td></td> <td>96,000</td> <td>216,000</td> <td>1,668,000</td> </tr> <tr> <td> 用補費</td> <td>50,000</td> <td>10,000</td> <td>4,000</td> <td>4,000</td> <td>32,000</td> </tr> <tr> <td> 内訳その他</td> <td>281,000</td> <td>108,000</td> <td>7,000</td> <td>15,000</td> <td>151,000</td> </tr> <tr> <td>財源</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 国庫補助</td> <td>1,080,000</td> <td>55,000</td> <td>50,000</td> <td>110,000</td> <td>865,000</td> </tr> <tr> <td> 県債</td> <td>564,000</td> <td>29,000</td> <td>26,000</td> <td>57,000</td> <td>452,000</td> </tr> <tr> <td> 内訳その他</td> <td>453,000</td> <td>23,000</td> <td>21,000</td> <td>47,000</td> <td>362,000</td> </tr> <tr> <td> 一般財源</td> <td>214,000</td> <td>11,000</td> <td>10,000</td> <td>21,000</td> <td>172,000</td> </tr> <tr> <td>事業内容</td> <td>用排水路工 L=5.6km</td> <td>実施設計 路線・用地測量 補償調査</td> <td>水路工 L=0.7km</td> <td>水路工 L=1.0km</td> <td>水路工 L=3.9km 用地補償</td> </tr> </tbody> </table>							全 体	R 6 年 度	R 7 年 度	R 8 年 度	R 9 年 度 以 降	事業費	2,311,000	118,000	107,000	235,000	1,851,000	経費						工事費	1,980,000		96,000	216,000	1,668,000	用補費	50,000	10,000	4,000	4,000	32,000	内訳その他	281,000	108,000	7,000	15,000	151,000	財源						国庫補助	1,080,000	55,000	50,000	110,000	865,000	県債	564,000	29,000	26,000	57,000	452,000	内訳その他	453,000	23,000	21,000	47,000	362,000	一般財源	214,000	11,000	10,000	21,000	172,000	事業内容	用排水路工 L=5.6km	実施設計 路線・用地測量 補償調査	水路工 L=0.7km	水路工 L=1.0km	水路工 L=3.9km 用地補償
		全 体	R 6 年 度	R 7 年 度	R 8 年 度	R 9 年 度 以 降																																																																								
事業費	2,311,000	118,000	107,000	235,000	1,851,000																																																																									
経費																																																																														
工事費	1,980,000		96,000	216,000	1,668,000																																																																									
用補費	50,000	10,000	4,000	4,000	32,000																																																																									
内訳その他	281,000	108,000	7,000	15,000	151,000																																																																									
財源																																																																														
国庫補助	1,080,000	55,000	50,000	110,000	865,000																																																																									
県債	564,000	29,000	26,000	57,000	452,000																																																																									
内訳その他	453,000	23,000	21,000	47,000	362,000																																																																									
一般財源	214,000	11,000	10,000	21,000	172,000																																																																									
事業内容	用排水路工 L=5.6km	実施設計 路線・用地測量 補償調査	水路工 L=0.7km	水路工 L=1.0km	水路工 L=3.9km 用地補償																																																																									
調査経緯	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年度調査計画 (調査費 8,000千円 国100%) ○ 令和2年度調査計画 (調査費 1,910千円 県50%, 地元50%) ○ 令和3年度調査計画 (調査費 1,660千円 県50%, 地元50%) ○ 令和4年度調査計画 (調査費 1,500千円 県50%, 地元50%) ○ 令和5年度調査計画 (調査費 14,000千円 国100%) (調査費 135千円 県50%, 地元50%) 																																																																													
上位計画での位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新秋田元気創造プラン「持続可能で効率的な生産体制づくり」 ○ 新ふるさと秋田農林水産ビジョン 																																																																													
関連プロジェクト等	○ 国営かんがい排水事業「横手西部」地区																																																																													
事業を取り巻く情勢の変化	○ 世界的な人口の増加や地球温暖化の進行等を背景とした食料不安が顕在化するなか、過疎化・高齢化による地域の集落機能の低下や担い手の不足等により、農業生産力が低下している このため、農業水利施設の整備により安定した農業基盤を確保し、農業競争力強化を図る必要がある。																																																																													
事業効果把握の手法	指標名	国営関連事業採択地区数																																																																												
	指標式	-																																																																												
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無																																																																										
	目標値 a	7 地区 (R5末)	データ等の出典	農業農村整備事業 管理計画																																																																										
	実績値 b	5 地区 (R4末)	把握の時期	令和5年6月																																																																										
達成率 b/a	71.4%																																																																													

2. 所管課の1次評価

観 点	評価の内容(特記事項)	評 価 点
必 要 性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上位計画である国営横手西部地区の排水諸元を満たせず断面不足の状況。 ○ 国営計画と合わせ排水再編を一体的に整備する必要がある。 ○ 豪雨時に周辺農地等への湛水被害を確認しているため早急な対策が必要。 	25点
緊 急 性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国営かんがい排水事業「横手西部」地区が上位計画に位置づけられており、一体的に整備することで湛水被害の軽減が図られる事から早急な対策が必要である。 	20点
有 効 性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 受益面積844.1haの広大な農地の干ばつ・湛水被害防止につながる。 ○ 草刈り頻度の減少などにより、水管理の省力化が図られる。 ○ 農業法人が設立済みであり、営農の継続が見込まれる。 ○ 受益地内ではスイカ等の作付計画があり、高収益作物の品質向上のためにも水路整備は必要不可欠である。 	20点
効 率 性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 費用便益比が1.50≥1.10となり、事業の投資効果を発揮する。 ○ 工法検討により、最適な工法を選定している。 	8点
熟 度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業推進について土地改良区の総代会で合意が得られている。また、総事業費に対する市の理解や負担についても合意が得られている。 ○ 土地改良区が維持管理台帳により整備記録を管理しており、毎年の整備状況から施設の長寿命化に向けた取組状況が確認できる。 ○ 環境情報協議会の意見を踏まえた環境配慮対策を計画に反映しており、熟度は高い。 	14点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III)	87点
	農業基盤である農業用水及び排水確保のため、地域関係者が一丸となった各種取組は、同じような問題を抱える地域の模範となるものであり、事業の必要性、有効性、熟度をはじめ、各項目とも評価点は高い。	
総合評価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留 本事業は、農業用水の安定供給及び湛水被害の防止、維持管理費の低減を目的としており、代替手段がなく、本県農業にとって必要不可欠な生産基盤整備であると判断され、事業実施は妥当であると考えられる。	

3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	○ 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
X	

4. 財政課長意見

意見内容	○ 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
X	

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
事業実施は妥当である。	

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

計画的な実施に努める。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

公共事業箇所評価基準

評価種別 新規箇所評価
適用基準名 かんがい排水事業

事業コード (R05-農-新-12)
箇所名 (横手市雄物川町沼館)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	事業の必要性					
	被害の発生・劣化状況・維持管理	①施設諸元が不十分である	4項目以上該当	25	25	①近年の豪雨により排水能力不足 ②豪雨時の湛水被害を確認 ③機能診断で、S-3相当に該当 ④上位事業(国営)と一体的なる排水再編整備が求められている。
		②用水不足・湛水被害が発生している	3項目該当	20		
		③経年劣化が顕著(S-1~S-3)である	2項目該当	15		
		④操作・維持管理に支障がある	1項目該当	10		
		⑤その他				
計				25	25	
緊急性	地域の状況					
	応急対策の実施状況	年1回程度の応急対策を実施している	10	10	毎年水路溝畔の補修や老朽化に伴う目地・モルタル補修を実施。	
		過去5年以内に応急対策を実施している	5			
		過去10年以内に応急対策を実施している	3			
	他事業との連携	他事業と関連して一体的な整備を要する	10	10	国営かんがい排水事業横手西部地区(H24着工)	
他事業はないが、単独で十分な効果がある		5				
計				20	20	
有効性	期待される具体的効果					
	干ばつ・水害等の軽減が図られる受益面積	受益面積200ha以上	10	10	A=844.1ha(用水・排水受益)	
		受益面積20ha以上	5			
	省力化技術の導入	水管理省力化に資する取組が2項目以上計画されている	10	5	ゲートの自動化により維持管理省力化を図る。	
		水管理省力化に資する取組が1項目計画されている	5			
	投資の妥当性					
①農業法人設立済み ②高付加価値化の取組実績(計画)がある ③担い手への農地利用集積率が90%以上になることが見込まれる	2項目以上該当(集積型の場合は3項目)	5	5	①法人設立済み ②地区内受益地で高収益作物(スイカ・ネギ・メロン)の実績がある		
	1項目以上該当(集積型の場合は2項目)	3				
計				25	20	
効率性	事業の投資効果					
	費用便益比(B/C)	1.20以上	5	5	B/C=1.5	
		1.10以上1.20未満	3			
		1.00以上1.10未満	1			
	事業費の節減					
①工法の比較検討 ②新技術の導入 ③資源の活用 ④共同工事 ⑤その他	2項目以上該当	5	3	①経済性・施工性から7リューム種類を比較検討		
	1項目該当	3				
計				10	8	
熟度	地元の合意形成の状況					
	同意状況	組合員(受益者)の仮同意により事業推進の意思を確認している	5	3	平鹿平野地域かんがい排水事業促進協議会にて議決が得られている	
		土地改良区の総会等で事業推進の議決が得られている	3			
	維持管理体制					
	施設・地域の維持管理体制	2項目該当	5	5	①施設管理台帳にて、日常の維持管理を記録 ②横手市沼館地域農地・水・環境保全組織により維持管理等の取組が行われている	
		①維持管理台帳・整備記録が整理されている	3			
	②活動組織等により、地域維持管理体制が確立されている					
	関係機関との協議					
	各種協議の進捗状況	必要な予備協議が完了している	5	3	採択までに予備協議をすべて完了する見込み	
		採択までに予備協議が完了する予定である	3			
環境との調和						
環境配慮対策 ①施工時の影響緩和 ②生態系保全 ③景観保全 ④その他	2項目以上該当	5	3	②工事施工前に水路内の魚類・底生動物については、工事の影響のない区間に放流する。		
	1項目該当	3				
計				20	14	
合計				100	87	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	農業用水の安定供給及び維持管理費の低減を目的とし、本県農業にとって必要不可欠な生産基盤整備であり事業実施は妥当であると考え。
II	優先度が高い	60点以上80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		